



第104回全国高校野球選手権大会

下関国際 準



大阪桐蔭戦。9回表。二塁走者松本選手が生還し、逆転。
写真提供 朝日新聞社

夏

下関が歓喜した

この夏、下関は、多くの市民が手に汗握り、下関国際高等学校の甲子園での快進撃にくぎ付けになりました。最後まであきらめない感動的な試合を繰り広げた下関国際は、下関のみならず、全国から熱い応援を受け、準優勝を掴み取りました。下関国際の快進撃に迫ります。

歴史に残るプレー

2022年、下関国際にとって3度目となる夏の甲子園出場。これまで部員たちは先輩が築いた甲子園ベスト8を超えることを目標に、厳しい練習を積んできました。

そして、ついに先輩と同じベスト8に進出を決め、8月18日、迎えた

優勝候補の大阪桐蔭との対戦。

3対4で、大阪桐蔭にリードされていた7回の守備。無死一、二塁で、仲井投手が相手のバントをノーバウンドで捕球し、二塁へ送球。すかさず、松本遊撃手も森二塁手へ送球し、甲子園史上9年ぶりのトリプルプレーが生まれました。この感動的なプレーで、試合の流れを変えます。

選手を後押しする手拍子

3対4のまま迎えた9回表を上田晃久校長はこう振り返ります。

「おそらく全国9割9分以上の方が、大阪桐蔭の勝利を予測していたと思います。しかし、9回表にスタンド

甲子園への道のりは1通の手紙から

05年、東亜大学で教員免許取得を目指していた坂原秀尚監督は、下関国際の野球部に指導者がいないことを耳にし、学校へ手紙を出しました。

受け取ったときのことを武田種雄理事長(当時副校長)はこう話してくれました。

「今でも持っています。手紙には『給料は要らないから野球部の指導をさせてほしい』と書いてありました。野球部は荒れているのに、こんな青年がいるのかと半信半疑で本人と会いました。会ってみると『この人は何か違う』と感じ、ほれ込みました」

無償で指導をしてもらうわけにはいかないと考えた武田理事長は、坂原監督に校務技師と、付属幼稚園のバスの運転手をお願いし、夕方野球部の指導をしてもらうことに。後に、坂原監督は正式に教員と監督に採用されました。

「坂原監督は純粋な方ですが、練習が厳しくて部員が1人になったこともありました。しかし、監督の努力と熱意があって、ここまでこれたと思います。しかし、今はまだ通過点だと思っています」と武田理事長の期待は膨らみます。



大阪桐蔭に勝利した瞬間の三星アルプススタンドの下関国際の野球部員たち
写真提供 朝日新聞社

の雰囲気がるっきり変わりました。バックネット側から、内野席、三星側スタンド、アルプスはもちろん外野席の半分ほどが選手たちを後押しする拍手をしてくれました。それは、地鳴りがするような、これまで聞いたことのない音量で、体が震え上がるものでした。それに応えて、赤瀬さんと松本さんが連続ヒット、仲井さんのバントで1死二塁三星となり、賀谷さんが気迫のこもったセンター前ヒットを打ちました。身の毛がよだつような逆転劇に、アルプススタンドは歓喜の嵐でした。絶対王者の大阪桐蔭を破り、全国の下関国際に対する見方がまったく変わりました」

37年ぶりの決勝進出

8月20日。ついに先輩のベスト8を超え、準決勝戦を迎えます。春のセンバツ準優勝校の近江との対戦。2対2の同点で迎えた6回、森選手とのツーベースヒットで勝ち越しに成功。8回、赤瀬選手と松本選手の連続スクイズなどで3点を追加し、山口県勢では37年ぶり、下関勢では早稲高校以来の58年ぶりとなる決勝進出を決めました。

日本一を目指して

8月22日。日本一まであと一勝。甲子園伝統校の仙台育英との決勝戦。3点を追う6回に1点を返したものの、7回に満塁ホームランを浴びました。9回1死から、仲井選手と賀谷選手の連打が出たものの、染川選手の内野ゴロで試合終了。アルプススタンドからは温かい拍手が送られました。

帰校式で、坂原監督は応援への感謝とともに、これからの想いを述べました。「本大会は3年生29人が本当に力になりました。次は決勝戦を超えること、日本一を目指すことが下関国際の目標になりました。何年かかかるかもしれませんが、ここを超えるために前に進んでいきたいと思っています。本当に長い夏休みでしたが、皆さんとこの瞬間を迎えられたことを幸せに思います。本当にありがとうございます」



写真提供 朝日新聞社

手に汗握り、
下関国際を応援した
夏

大鼓で応援

下関国際3年生で野球部員の藤本尚輝さんは、応援団長として、ずっと太鼓を懸命に叩いて応援しました。「全力で今までやってきたことを披露してくれました。みんなとの野球が終わる寂しさはありますが、これまでありがとうと言いたいです」と、感慨深げに話してくれました。

トランペットで応援

下関在住の廣重美菜子さんは、お子さんが下関国際の付属幼稚園に通園していました。

「野球部員は会うと、必ずきちんと挨拶してくれる良い子たちでした」県大会で応援に行ったのをきっかけに、大会ではトランペットを吹いて応援をするようになりました。

決勝戦は、トランペットを携えて市役所のパブリックビューイングで応援。「たくさんの感動と元気をもらいました。この夏のひと時を一緒に過ごさせて心から感謝しています。ずっと応援していきたいと思います」

夢と感動を

下関国際附属幼稚園からは、ちょうど野球部のグラウンドが見えます。これまで、練習風景を見てきた溝部哲正園長は、職員の皆さんと帰校式に駆けつけ、帰ってきた選手にエールを送りました。

「幼稚園の子どもたちに夢と感動をくださり感謝しています。憧れの存在にもなると思います。子どもたちも選手の姿を見て夢に向かって突き進んでほしいと思います」



手紙が続々と

下関国際には、応援や感謝の手紙が全国から続々と届きました。



賀谷選手に、手紙を受け取った感想を伺いました。「自分のプレーを見てくださり、感動したと言っていただけで、すごくうれしいです」



卒業生 玉住和樹さん

授業の合間の休憩にも素振りをしている姿を見ていたので、努力が実って本当に良かったです！



東原弘光さん

伝統校に立ち向かってくれ、熱い気持ちになりました。これから伝統を作っていくてくれると思います。

3年生野球部員に聞きました!



とにかくすごかった下関国際の大躍進! その下関国際のすごさを部員29人に直撃取材しました。

Q 下関国際のすごいところ!

あいさつが良い・元気が良い・明るい…10人

野球部をすごく応援してくれる・コース選択制など野球への力の入れ方、スポーツに特化している…8人

凡事徹底(当たり前のことを徹底的にやること)、徹底力…3人

学校全体に一体感がある/下関市民に愛されている/星がきれいに見える

野球やウエイトリフティング部が全国的に有名/先生が優しい/人が良い/

たくさんの人に応援されている/つながり…各1人

野球部員は3年間同じクラス!! 全員で寮生活!

下関国際には硬式野球に特化したアスリートコースがあります。

今年の3年生はこのコースの1期生。

「球道即人道」をモットーに週3日、「スポーツ探究」を部活動につなげて、「心・技・体」が揃ったトップアスリートの育成に取り組んでいます。

そして、全員が寮生活。衣食住を共にしています。

チームワークの良さに納得!



親元を離れて生活している野球部員の皆さん。そんな皆さんに下関の“好き”を聞いてみました。

Q 下関の好きな食べ物!

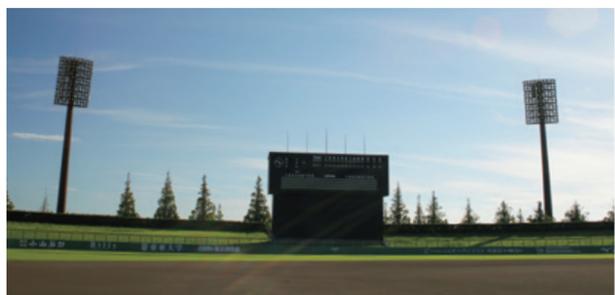


ふく…26人
海鮮丼…2人
魚…1人

Q 下関で好きな場所!



下関球場…14人
唐戸市場…10人
海響館…3人
関門海峡…2人



野球部員のベストプレイス!

週に3・4回、高校から3kmほど離れた下関球場(オーヴィジョンスタジアム下関)へ、野球部員は走って行き、実戦練習を積んでいます。

その練習場所が、好きな場所の堂々1位にエントリー!
野球部員の皆さんは、本当に野球が好きなんです!